令和６年度　幼児教育研修（施設長）
「人材育成について」～今、求められる園長の役割とは～
日時：令和６年６月１４日（金）１５：００～１７：００
会場：足立区勤労福祉会館
講師：玉川大学　教授　　若月　芳浩　氏

子ども主体の保育を実現するために

保育の質的な向上に向けて 時代の変遷と今

昭和
活動中心主義　望ましい経験・活動の提供
平成
環境による　遊びを通しての総合的な指導
令和
主体的・対話的・深い学びへ
子ども主体の教育・保育の実現へ

研修を通して考えたいこと

＊保育者がやる気をもって日々の保育に取り組み、個人として、園として、保育の質の向上について検討する

＊目の前にいる子どもの面白さや凄さを改めて認識する

＊主体性が発揮されない保育を見直す方向性を園として、個人として検討

園内の課題

- 人間関係
- 情報共有が困難
- 人手が不足
- 保護者対応の困難さ
- 障がいのある子どもへの支援
- 職員のやる気
- 職員の保育に対する共有の難しさ

課題解決に向けて

- 園内連携ができない理由を探る、ICTを活用する
- 採用に必要な学生を理解する
- 好きなこと、嫌いなことを探り、保育の方向性を検討し、園内で共有する
- ビジョンを確認し、目標設定をした上で具現化までの道程を検討する
- 保育という仕事の楽しさを具体的に体験する
- 課題の根拠を探り、保護者と協力する関係を如何に形成する事が可能かを探る
- 対話が実現され、感じたことや思ったことをいつでも口に出す事が出来る雰囲気を醸成する　など

イマドキの学生からわかること ～アンケート結果

■就職したい園を検討するときに重視すること

《四年制大学》
1. 保育内容
2. 職場の人間関係
3. 給与

《短期大学》
1. 職場の人間関係
2. 保育内容
3. 給与

■望ましいと考える保育内容

《四年制大学》
1. 遊び中心
2. 地域資源
3. 広い園庭

《短期大学》
1. 遊び中心
2. 広い園庭
3. 地域資源

■就職したい園を検討するときに重視すること

《四年制大学・短期大学》
1. 温かく受け入れる先輩
2. 園長の人柄
3. 園長の保育理解

園長の人柄が**園の雰囲気をつくる**部分は大きい。
園長が保育を理解していなければ、**質の高い保育の実践**は難しい。

「遊びを中心とした保育内容」の**鍵を握る**のは、園長である。
園長の役割の重要性が裏付けられている。

保育の新たな方向性を考える

●時代の変化の状況を鑑みて保育実践を具現化していく

●リーダーやミドルリーダーの役割や園内での情報共有やビジョンが必要

●職員が主体的な保育をしていく
●園長として具体的な変革を導いていく

～大きな変革ではなく、小さな変革から始めよう～

子ども主体の保育を実践するために

職場環境の取り組みと課題

＊ 保護者からの意見は、職場の風通しを良くするだけでなく、皆で考えるチャンスと捉えることが必要である
＊ 園内の空気をオープン化する必要性がある

保育としての工夫　園内研修

＊ 子どもが出してくれる課題を話題の中心にする
＊ 子どもの内面を**「多様」**に探る
＊ 子どもに対して**「尊厳」**をもち**「寛容」**になる
＊ 対話が生まれ、職員が**「感化」**される可能性がある→**職場の好循環につながる**

チーム力を高める

＊ 皆が共に同じことを考える時間を共有する
＊ どんなに困難な出来事でも、園長の出番をしっかり考えることが必要
＊ 職員関係における場の工夫
＊ 先生方の主体性が発揮されること

保育が面白いと思うために

＊ 子どもの物語が見えたり、語れるようになること
＊ **ドキュメンテーションやポートフォリオを活用**する
＊ 動画を撮影する
→「子どもって凄い」と感じる瞬間が増える
保育が面白いと感じることが増加する

ICTを活用し連携を図る

＊ 教職員間の連携、保護者との連携に活用する
＊ 週日案などの簡略化と保育者相互の対話につながる
＊ 会議の削減につながり、連携は豊かになる
＊ 多様な子どもの姿を写真や動画で共有する

「子どもの主体性」と「大人の意図」をバランスよく絡ませていき、発達に必要な体験ができるようにする

研修生の報告書より

保育を「見える化」し、職員間で意見交換をしたり保育者の考えを知ったりすることが、より良い保育につながり保護者との信頼関係にもつながっていくことを学んだ。園のチーム力を高め質の向上に努めていきたいと感じた。

保育者に寄り添っていくことが大事であり、自分が変わっていかなければ目指す保育像を理解してもらえないと感じた。園のチームワークや雰囲気をどう作っていくのかは園長次第だと学んだ。

遊びの中に学びがあることを保育者が認識し、保育の見える化をしていく必要がある。担任は自分のクラスのことを自分で考えて保育を行い、園長がその後押しをしていくことを学んだ。

保育の楽しさを伝えていくことが、若い保育者が「ずっと働きたい」という意欲につながると学んだ。保育の楽しさや子どもと関わる面白さは、子ども主体の保育を実践することでたくさんの気付きを得られると知った。